

近年の世界の地質情報管理

Geologic information systems in recent world

古宇田 亮一 [1]
Ryoichi Kouda[1]

[1] 産総研
[1] AIST

<http://www.aist.go.jp>

WEB-GIS が普及することによって、各国の地質情報に関係した機関や企業の情報提供と管理の仕方が著しく変わってきている。最近10年の欧州諸国における地質情報管理の変遷を軸に比較すると、次のようにまとめられる。

1) 集中管理, 分断型地質情報管理: 各国や企業ないし事業所単位で、各々、データベースマシンを孤立集中的に運用管理し、計算機資源とソフトウェア(ミドルウェア)が独自に追求され、予算規模に応じて様々なソフトウェアとデータベース管理が乱立、国内の統一にも問題があり、国境を越えた相互運用性は全く考えられていなかった(一般的には5-6年前まで)。

2) ネットワーク接続ができる相互運用型地質情報管理: インターネットの普及により漸次的に情報の一部が公開され、クリアリングハウスも普及して XLM などにより補完的な標準が形成され、各国の地質情報 GIS システムが商用の ArcGIS でほぼ統一されたため、結果的に分散型の相互運用性が拡充してきた。

3) WEB-GIS への発信により、各国や各企業・機関等で情報独占するより、相互運用することのメリットが生じたため、新たに国際標準が様々に提案されている(ここ数年の動き)。

従来は著作権や所有権の壁により、地質情報の相互運用性は困難だったが、簡易には WMS などにより WEB を通じて発信することで情報共有だけでなく相互運用が実現しつつある。しかし、本来表現できたことが標準化により抑圧されたり、WEB 発信の独占化で集中管理に逆戻りしたりなどの問題点も多い。